

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
さいたまIT・WEB専門学校		平成22年3月31日		櫻田 勝久		〒 330-0845 (住所) 埼玉県さいたま市大宮区仲町3-100-2 (電話) 048-644-9000		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人東京滋慶学園		昭和61年2月1日		中村 道雄		〒 〒143-0016 (住所) 東京都大田区大森北1-18-2 (電話) 03-3763-2200		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	情報技術科		令和 5(2023)年度	-	-		
学科の目的	デザイナーとプログラマーの実践的な技術や知識を身につけ、クライアントの要求に応じたWebサイトの企画提案から制作、制作後の運用データの適切なフィードバックを通じて、クライアントの目標達成や問題解決に貢献できるWebプロデューサー・ディレクターを育成する。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	Webサイトを中心としたコンテンツ制作・運用の学習を通して、デザインと情報技術を統合的・実践的に結びつける企画力・実行力を身につけ、クライアントの要望に応えられるコンテンツ、サービス、システムを開発・運用できる人材になること。また、ITパスポートや基本情報技術者の資格を取得すること。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入		1,700 単位時間	690 単位時間	960 単位時間	1,230 単位時間	0 単位時間
		- 単位		46 単位	64 単位	41 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)	中退率		
80 人	80 人		0 人		0 %	9 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		24 人					
	■就職希望者数(D)		20 人					
	■就職者数(E)		20 人					
	■地元就職者数(F)		19 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		95 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		83 %					
	■進学者数		1 人					
	■その他							
	3名: 就職の希望なし							
(令和 6 年度卒業者にに関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和6年度卒業生)								
株式会社FameAgle、株式会社SONIC SQUARE、株式会社イーゼ、株式会社さくらコミュニケーション、JR東日本コンサルタンツ株式会社、T & D情報システム株式会社、株式会社アルプス技研、株式会社システムリンクなど								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
※有の場合、例えば以下について任意記載								
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.siw.ac.jp/department/web							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		2,880 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		300 単位時間						
うち必修授業時数		1,020 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		60 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総単位数		151 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		2 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		20 単位						
うち必修単位数		64 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		2 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0 人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3 人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1 人			
	計				4 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本科はIT・情報分野の実践的教育を重視し、企業等との連携を通じて教育課程を構築・改善する。最新技術を反映した科目開設、インターンシップや共同プロジェクトの導入、教員の研修などを通じて、産業界と協働し、即戦力となる人材を育成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教育課程の企画・改善を担う専門委員会であり、教員・企業関係者等で構成される。業界動向や地域ニーズを踏まえ、情報収集・協議・素案作成を経て学校長が承認し、教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
近野 明	一般社団法人日本プライバシー認証機構	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
山田晃平	株式会社テックピット	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
小倉直樹	paiza株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
山口竜太	株式会社ブレースタッフコンサルタンツ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
山本浩之	株式会社ブレースタッフコンサルタンツ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
結城健二	東京滋慶学園	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
櫻田勝久	さいたまIT・WEB専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月・12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月30日 13:00～15:00

第2回 令和6年12月3日 17:00～19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

■教育課程の改善案

パソコンの基礎やプログラミングの初期教育が非常に大事になるため入学式から正規授業が始まるまで2週間程度の基礎トレーニング期間(名称:スタートアップ研修)を設ける。

■今後の検討課題

ポートフォリオ(成果物)作成のための各科目間の連携および主たる科目(キャリアデザイン等)のフィードバックを目的とした講師連絡会の開催。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本科は、IT分野における実践力の育成を目的に、最新技術や開発現場の知見を取り入れた実習を通じて、学生の課題解決力や職業意識を高め、即戦力となる人材を育成します。企業と共同で実習内容を設計し、現場技術者による指導やメンタリングを実施することで、理論と実務の融合を図ります。また、地域IT企業との協働により、地域社会に貢献する教育活動も推進します。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ① 高度な知識・技術を習得する実習・演習、資格取得目標科目等の講師派遣
- ② 科目シラバスや必要な教材・資料等の作成
- ③ 授業における学生の達成度評価の実施

また上記①②③について、教育課程編成委員会及び講師情報共有会議にて内容をフィードバックし、科目間連携強化によって実習や演習の成果が「点」で終わることなく、就職や資格取得に結びつく「線」となるよう努めていく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
人工知能	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	Pythonを用いてより実践的な「人工知能」課題に取り組む。	株式会社システムリンク
PHP	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	フロントエンドと並行して、バックエンドで一番普及して覚えやすいPHPについて理解を深める。 PHPを学ぶ課程で、データベースやLinuxなどについても理解する。	株式会社システムリンク
JavaScript応用	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	JavaScriptの各種ライブラリの活用：DOM操作と各種JavaScriptライブラリの活用。	株式会社グッドワークス
Linux演習	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	一般社団法人エデュコより学習教材を提供いただき、基本的なLinux操作やコマンド、基礎的なシステム管理スキルを習得する。演習や実践的なアクティビティも組み込んで、学習の定着を促進する。各セッションでの実習やデモンストレーションを通じて、学生の自主的な学びを促す。	一般社団法人エデュコ
クラウド	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	一般社団法人エデュコより学習教材を提供いただき、AWS Academyの教育プログラムを活用して、クラウドの基礎、管理、実践に焦点を当てた授業を展開する。クラウド開発に必要なスキルを習得することを目的とする。Linux 初学者も含まれるため、前半はLinux の基本操作を学び、後半で AWS を活用したクラウドアプリケーション開発に取り組む。	一般社団法人エデュコ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本科は、教員の専門性向上と教育の質的充実を図るため、研修・研究活動を重視する。教員は、最新技術や教育手法の習得を目的に、校内外の研修や企業研修、学会等に積極的に参加すること。これらの研修は、教職員就業規則および研修規程に基づき、学校長の指示・承認のもとで実施される。研修・研究の成果は教育活動に還元し、学生指導力の向上と教育課程の改善に活用する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	AWS Academy × Cisco Networking Academy 合同プログラム ラム	連携企業等:	アマゾンウェブサービスジャパン合同会社
期間:	2024年8月19日(月)	対象:	基幹教員
内容	サイバーセキュリティ教育におけるAWSAcademyの活用事例等。		
研修名:	Cloud Web Application Builder	連携企業等:	アマゾンウェブサービスジャパン合同会社
期間:	2025年2月6日(金)	対象:	基幹教員
内容	AWS Academyコースで学んだ専門的な技術を強化するプロジェクトベースの学習体験。		
研修名:	エンジニアとしての生成AIとの関わり方	連携企業等:	特定非営利活動法人エルピーアイジャパン
期間:	2025年2月28日(金)	対象:	基幹教員
内容	生成AIアプリ開発におけるプロトタイピングとLinuxやネットワーク基礎技術の関連性を理解する。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	キャリアサポートアンケート<ビギナー研修>勉強会	連携企業等:	一般財団法人滋慶教育科学研究所
期間:	2024年6月5日(水)	対象:	基幹教員
内容	『キャリアサポートアンケート』の学生の傾向と問題状況の読み取り方、学生指導への活用方法を学ぶ。		
研修名:	新しい教育を拓くオンライン授業の最前線	連携企業等:	デジタルハリウッド大学
期間:	2024年9月30日(月)	対象:	基幹教員
内容	STEAM・デジタルリテラシー教育導入後の運用方法を探る。		
研修名:	Udemy Business活用勉強会	連携企業等:	株式会社ベネッセコーポレーション
期間:	2025年3月21日(金)	対象:	基幹教員
内容	Udemy Businessを活用したオンデマンド型学習によって得られる教育効果について理解する。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ITエンジニアのためのミートアップイベント	連携企業等:	NPO法人LPI-Japan
期間:	2025年5月28日(水)	対象:	基幹教員
内容	AI駆動開発の概要とデモンストレーション、要件定義。設計・実装など。		
研修名:	先生方向けコース実施サポートセッション	連携企業等:	アマゾンウェブサービスジャパン合同会社
期間:	2025年8月28日(木)	対象:	基幹教員
内容	AWS Academyを利用して授業を行うにあたっての最新情報の提供。		
研修名:	先生方向けテクニカルセッション	連携企業等:	アマゾンウェブサービスジャパン合同会社
期間:	2025年8月28日(木)	対象:	基幹教員
内容	Amazon Q Developerを利用した生成AIによるアプリ作成体験。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	paizaラーニング活用勉強会	連携企業等:	paiza株式会社
期間:	2026年3月6日(金)	対象:	基幹教員
内容	paizaラーニングの評価機能や求人スカウトの流れを理解し、就職指導に役立てる。		
研修名:	Udemy Business活用勉強会	連携企業等:	株式会社ベネッセコーポレーション
期間:	2026年3月6日(金)	対象:	基幹教員
内容	Udemy Businessの活用事例からオンデマンド学習の促進方法を学ぶ。		
研修名:	キャリア教育ベーシック研修	連携企業等:	一般財団法人滋慶教育科学研究所
期間:	2025年10月21日(火)	対象:	基幹教員
内容	キャリア教育で指導する主要な能力項目と合理的配慮の注意点など。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の自己評価結果の客観性・透明性を高め、本校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図るため、学校関係者評価委員会を設置する。

学校関係者評価委員会は、学校が策定した重点目標、計画の実施についての自己評価結果、評価結果に基づく今後の取組方針などについて、学校関係者自らが学校見学や教職員・学生やステークホルダーとなる関係業界・卒業生と対話を行い、教育活動、学校運営等に係る課題を共有し、今後の方向性等に対する助言等を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム
(3)教育活動	目標の設定、教育方法・評価・単位認定、資格取得の指導体制
(4)学修成果	就職率、資格取得率、卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等の進路、中途退学への対応、学生相談、保護者との連携
(6)教育環境	施設・設備、学外研修・インターンシップ、防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令、設置基準等の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、ボランティア活動
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

本校では、学校関係者評価を教育の質向上に活用している。教職員・学生・企業等からの意見をもとに、教育課程や指導方法の改善を図り、実践力ある人材育成に努めている。評価結果は教職員会議等で共有し、次年度の計画策定や研修内容の見直しに反映している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
佐藤愛奈	株式会社システムリンク	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
宮崎和子	なし	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者
松本 明	東京理科大学	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高等学校関係者
竹内 美恵子	大宮区役所	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	地域関係者
片山良平	paiza株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業関係者
香山 哲	コムウェア株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.siw.ac.jp/information>

公表時期: 令和7年5月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の自己評価結果の客観性・透明性を高め、企業等の学校関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図るため、学校が策定した重点目標、計画の実施についての自己評価結果、評価結果に基づく今後の取組方針などについて共有する。また、企業等の学校関係者自らが学校見学や教職員・学生やステークホルダーとなる関係業界・卒業生と対話を行い、教育活動、学校運営等に係る課題を共有し、今後の方向性等に対する助言等を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	理念・目的・育成人材像、運営方針、事業計画
(2)各学科等の教育	養成目的、教育目標、教育課程
(3)教職員	教職員の組織・体制
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、実践的な職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	就職等の進路、中途退学への対応、学生相談、保護者との連携
(6)学生の生活支援	施設・設備、学外研修・インターンシップ、防災・安全管理
(7)学生納付金・修学支援	学納金、奨学金等の学費支援
(8)学校の財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)学校評価	学校評価、情報公開
(10)国際連携の状況	国際交流
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.siw.ac.jp/information>

公表時期: 令和7年5月1日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場 所		教 員		企 業 等 の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 技 術 実 習・ 実	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			キャリアデザイン	就職活動において主体的に行動できることを目的として支援する。受講生が納得のいく進路を決定するために就職活動の準備をする。事前準備（企業・仕事研究、自己PR・志望動機作成）と実践及び振り返りにより改善を重ね就活力を伸ばす。	1 年 通 期	60	4	○			○		○		
2	○			キャリアデザイン	就職活動において主体的に行動できることを目的として支援する。受講生が納得のいく進路を決定するために就職活動の準備をする。事前準備（企業・仕事研究、自己PR・志望動機作成）と実践及び振り返りにより改善を重ね就活力を伸ばす。	2 年 通 期	60	4	○			○		○		
3			○	Office基礎	IT業界では、調査・実験などで得られたデータを整理分析し、わかったことをレポートやプレゼンテーションの形で人に伝えるスキルが求められる。Microsoftのコンピュータソフト（Word、Excel、PowerPoint）を利用して、このプロセスを効率的に進めていくことを、演習を通じて学ぶ。	1 年 前 期	30	2	○			○		○		
4			○	Office応用	実際に即した印刷を意識した用紙にちょうど収まるレイアウトや見た目の美しさや統一感を学ぶ。途中まで作ってあるものの続きではなく、ゼロページの白紙の状態から完成物を1人で作り上げられる能力を身に着ける。更にExcelVBAやAccessについての一通りの内容を学ぶ。	1 年 後 期	30	2	○			○		○		
5	○			ビジネスマナー	ビジネスマナー、メールマナー、電話マナー、敬語などについて	1 年 後 期	30	2	○			○			○	
6	○			インターネット概論・関連法規	本授業では、インターネットの基本構造や技術の仕組みを学び、通信プロトコル、ネットワークアーキテクチャ、セキュリティ対策などの基礎知識を習得する。また、個人情報保護法、著作権法、電気通信事業法、サイバーセキュリティ関連法規など、インターネットに関連する主要な法規・規制について理解し、適切な利用・運用が求められるようになることを目指す。	1 年 前 期	30	2	○			○			○	
7	○			Webデザイン概論	【Ⅰ】過去から現在に至るWebのあり方とこれから未来のWebとデザインの関わり方 WebサービスにおけるUIデザインと情報伝達の仕組みについて 【Ⅱ】各種Webデザインにおける最新のトレンドとこれからの傾向について ターゲット層やペルソナから見るWebデザインについて	1 年 通 期	60	4	○			○			○	
8	○			Web制作概論	【Ⅰ】Webサイト構築の工程と各ポジションの役割について 【Ⅱ】ECサイトなどの構築行程と必要な知識について	1 年 通 期	60	4	○			○			○	
9	○			Webビジネス	【Ⅰ】Webビジネス（インターネットビジネス）の歴史と種類について Webブランディングの概要について 【Ⅱ】最新のWebビジネス（インターネットビジネス）とこれからのビジネスについて	2 年 通 期	60	4	○			○			○	
10	○			ネットワーク	インターネットはコンピュータを相互接続した世界規模のネットワークであり社会基盤となっている。情報システムにおいても必要不可欠なネットワーク技術の基礎を身につける。	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
11	○			情報セキュリティ	情報化社会において、ウイルス感染や情報漏洩など情報セキュリティに対するリスクが大きくなっている。個人や企業における情報セキュリティの脅威や対策の考え方を学ぶ。	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
12	○			デザイン基礎技法	【Ⅰ】Webデザインに必要なグラフィックソフトの基本操作を学ぶ。 【Ⅱ】複数ページからなるWebサイトのデザインを学ぶ。 また、デバイスごとのレイアウトについても学ぶ。	1 年 通 期	60	4	○			○			○	
13	○			Webコーディング基礎演習	【Ⅰ】Webコーディングの基本であるHTMLとCSSについて学ぶ。 【Ⅱ】WebコーディングのHTMLとCSSについて学ぶ。 共有ファイルや変数などを使用して管理しやすいサイト構築について学ぶ。	1 年 通 期	120	8	○			○			○	
14	○			Webデザイン演習	Webデザインに欠かせないWebフォントの導入や配色に関する基礎知識を学ぶ。	1 年 前 期	30	2	○			○			○	
15	○			JavaScript	【Ⅰ】JavaScriptとプログラミングの基礎：プログラミング言語に関する基礎知識：JavaScriptの基礎技法 【Ⅱ】マルチメディア表現：音声、動画、canvasを使った2D、3D表現	1 年 通 期	60	4	○			○			○	
16	○			プログラミング演習	【Ⅰ】習得したJavaScriptの知識を組み合わせて、与えられた課題を解決していく：課題、演習 【Ⅱ】マルチメディア表現を含むプログラミング演習	1 年 通 期	60	4	○			○			○	
17	○			iOSプログラミング	【Ⅰ】iOS用のプログラミングについて、基本的な制作工程を理解する：開発環境Xcode上でSwift言語を用いたiOS開発の基礎を学ぶ 【Ⅱ】Pythonを用いたiOSプログラミング開発 Pythonの基礎、Pythonを用いたiOSプログラミング	1 年 通 期	60	4	○			○			○	
18	○			プレゼンテーション	実践的な（プレゼンテーション）能力獲得のために、現代社会における（プレゼンテーション）の意義と役割を理解し、そのために必要な理論と方法を学ぶ。（プレゼンテーション）は、その内容が「聞き手」に伝わらなければ目的は果たせない。このことを念頭に置いて、実践的なスキルを習得できるよう、講義とともに毎時の課題に取り組む。	1 年 前 期	30	2	○						○	
19	○			プロジェクト実習（共通）	習得内容に応用したチームによる制作（クライアント要件型、独自アイデア型）	1 年 通 期	120	4			○	○			○	
20	○			Webライティング	Webサイトに掲載する文章の書き方について学ぶ。	1 年 後 期	30	2	○			○			○	
21	○			データベース	情報システムではデータベースの利用が不可欠である。リレーショナルデータベースの特徴を学び、データベースソフトウェアの操作や基本的なデータ操作を身につける。	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
22			○	クラウド	「クラウド環境」とは、インターネットを介して外部サービスを利用し、業務システムやデータベースなどを運用するシステム環境のことである。従来までのオンプレミス環境とクラウド環境の違いを理解しクラウド人材としてのあるべき姿を理解する	2 年 後 期	60	4	○			○			○	
23			○	学外実習	社会との密接な接触を通じて、自己の適性及び職業選択の方向性を把握するとともに、専門領域についての実証能力と学習意欲の向上を図る。	2 年 通 期	480	16			○	○	○			

